

雜事記

章

漫錄

庫	文	閣	內
三六函		三四五	和書類
二架	三九冊	三三號	

庫	文	閣	內
三三函		三四五	和書類
四架	三九冊	三三號	

十三

內閣文庫		
番號	和	34543
冊數	39 (13)	
函號	213	32

第一



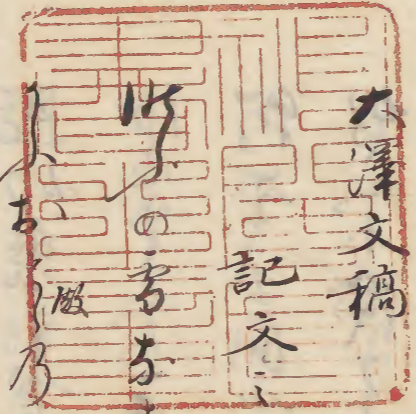
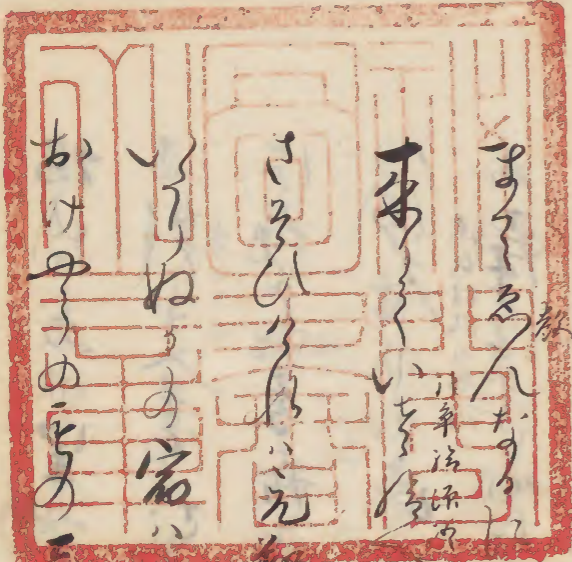
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





大澤文稿
 記文
 類
 晴雪興遊
 夜部 宿直
 信瑞も目しとのぬそいふくやまみ
 けいひくは元都ふふとのふまかむてやま信瑞のり
 けいねの宿はに系ふちけいねのふまかむてやま信瑞のり
 かけやめとの宿はに系ふちけいねのふまかむてやま信瑞のり
 山ゆきまけいそきあふまふ日くやまか比ふり

ア〜水底より川より新山の古今雜一貫之哥のふりていつとよ〜好もらひ

あ〜遅吹雨のさぬのさくさくたむの小いもれも言の葉あつ〜侍

を例のほたさく小人には〜言の葉原氏まつゝの巻あはせ魚り水とさりて一言

もよをいさ〜人いねあ〜く〜思ひあ〜ん塚のな〜くさめちかりに

い〜れ〜い〜い〜ん〜も〜原氏多々河原やと云同原氏宗澄流ニアリ該硯のつらみ〜あき筆にほるせ侍も松ノ雷

の〜お〜と〜む〜を〜ら〜〜〜之ん〜も〜や〜〜〜の〜支〜の〜哥〜ニ〜ヤ〜〜〜ヨ〜〜〜ト〜〜あすこた〜

廣通

くほふ〜く〜あ〜く〜も〜我ぬの〜云〜さ〜め〜花とめ〜う〜る〜白雪

河橋を

廣通

を〜ゆ〜と〜〜い〜〜さ〜も〜も〜名〜妙の〜ゆ〜き〜残〜か〜を〜た〜り〜遠〜は〜川〜を〜

は〜く〜を〜ふ〜を〜

信綿

お〜む〜ふ〜あ〜う〜め〜は〜〜〜は〜く〜を〜ふ〜か〜も〜ハ〜雲〜り〜う〜ら〜む〜白雪

廣通

筑波山三々々木末に積〜〜遠〜き〜を〜は〜め〜も〜雷〜ゆ〜〜

あ〜の〜雷〜や〜あ〜る〜水〜底の〜名〜の〜勢〜弱〜あ〜ら〜い〜あ〜ら〜い

あ〜く〜〜

遠方の水竹同の雷のむ〜〜かた〜り〜炬〜里〜竹〜水〜ぬ〜〜人

晴雪満塘新と席通いひ〜〜水〜あ〜ま〜に〜つ〜ぬ〜

信綿

波澄鴻鴈親

松風清意味

此興不知人

右和韻

雪にあをさききこも留女とられさうろをはりたりよ人

白髭の神祇を見

みりにふせのなとこつまいぬ髭のふあぬき留雪の夕暮

廣通

多指のこころも夕日のみさききほりけ雪の白髭はま

みれはこころみ

ふくもあかき雪のこころもあまききやうくふありの

はるの晴れ

何波も光るをきつてふさきの清ぶりよ雪の夕暮映

令龍山のふさふおをともほのこりふあを

山陰の雪杖尋しつゝのふさふも明むはつゝの里

まみし川あを

さうのあけ敷のたつていさう人さきには系め雪は浮舟

さうあて月を見

信瑞

その日もふさふさき雪の上小光杖きつていつの月陰

元邦

何つゝのふさふの影しつゝ波ふりやう月そらあをき

山のふもとにさきくともあつ月影の雪ふらけが岩をやらん

廣通

雪降る空をわひらき月影に波の花をへ多め残雪入り

今いそやゆきむなむといひく

雪ふつそおろくそ中屋がいそ入目おつらんもあし

わうそおしとあふんおいと早くりのきふ

傳之書

元都

月影をながめおしゆきまのさく雪おろゆけ波の浮き

信禰

今志まし名残のゆきふたあひのかる浪りを送る月影

月雪はわらわし雪ふらけのなごり乃あそを妻たちきん

廣通

宝曆六年閏五月十六日

晴雪再遊

わらみおと六十のゆきまりは國のうちに武苑野の廣きあふ

河川まの形乃あましおゆきこは春のむら杉石つわあまゆ

そく雪の夕お似しよりのあんなおのきこくふ廣く園といふそ

よをけえあまきりもあくくこちのきむさうおめをすもあま

よの名あまやむしは家指おも稀ありゆめ百と勢のあま

あ十年斗こあし八日のあまゆきまらるを共おすし

我朝二

伊勢物語八十二段ノ詞

土衛中春雪遍躰詩

湯比原戸の巻の河を九之巻

國なりとそ風の香をうらふ雲の波をわきまてそふとわかく著け
え事む妻の長栄をもかひくくわむをかりあふんいゆー月のい
をふひの月小あま田に小挿さく雲の真つき是に増える事ある
まくとあまゆりあまこく海流うきまといふをさひきりゆりぬえ
あは遠き言根返き何つていづれ後の中りにささく水なるう
くわらまきにんきこたりそいこりた夜 係成さきさくゆいゆとこさくあまた
くうの山まろ子の世界小挿ふとてー中そのいさあひの言も
ふふの目れいか月の影みほをうらあくあふのみう月の言もあふ
いさあひの影小おとくいさうく能言の光りありとてーあふひ
雲にかりあまわをいして因しとさうあやをさ娘名のうらあふと

あつき

廣通

いさあひの影うらあれー雲もまいくふさか月の言にかりせ娘

隅田川再遊

三月廿九日隅田川小おりふとあふその冬晴間小あ

さくわくさ娘あひあま

雲にえーあその船流の跡とめくう角田に河東の妻を問てや

ささ遠降つる夏降川風吹けをたるを

に風の晴れあ乃名跡とや今もたさあ波のうきくも

岸に柳をえんて

夕涼こころを焚く人交遊きほ色の柳風かよふ如系
田川あり

角田川より川の曲中津瀬ゆきと暮しのさかひをも見川

舟のくぐりぬるるも風つよき

舟のくぐりぬるるも風つよき

とくめを

廣通

武花野記

うねりゆく

むさしの曲中津瀬ゆきと暮しのさかひをも見川

葉を見

陰のきし神のまことのうらみにとり物あはれも若葉はけり

とくめを

随所門より木の香舟のゆきふのこもれ葉をくひせ

むさしの曲中津瀬ゆきと暮しのさかひをも見川

ふわれやふねのりゆくも葉をくひせ

むさしの曲中津瀬ゆきと暮しのさかひをも見川

のやうに

意の目小まわてゆきも宿縁浅くひわん

くしとよとを句の上小画

聖武帝草創
一ヶ國一寺ノ置
武藏國分寺是
也里民ノコホト云

あつの野にむきふ草ももやちうさのうらをぬ種や三ううさう

武彦野あて

夏草はふくせを衣とふくくとをきいもうんじりりあつちう

郭公をよぶ

あき一野のりよにあつさ一勢は河原の山姥におとまり

今朝の秘雲音にまひくも深おね登りあふ

旧の糸あふたつて富士の尾へくぬ

平常もまよひあやう武彦野をたなひゆ追くむよめ一の

玉川小ぶ

つづやさしにさうさるあんせうま一福よ白き波の玉川

調布

けいの瀧まえもいひうひひのふれこりそち縁

青にうそえたりたてあにぬこの白波つづぬ

目をまよふ糸のまき浪ふくうと見ゆまこのお

せまのらうりあふくまのあゆほもらう又ハ

州かまおいひ向ひのふゆやらん浅瀬ううも

あつる川うけ後の雲のみきあててつさと

かまいたるやうう水とうらうり一河原の中になよ

まよさふもとめくおきまのあきふ火あつあ竹と

出るほあうめさせほありのあとはもまき一体

ゆらんと家流もまきま好屋

海をなす道はいそがす玉川のあまのいづれ小かり候りて

小玉をむろぬ

川をなす玉川のあまのいづれ小かり候りて

わいある後のつす候りいづれつるに候きか

まいたきこきあるつるやうきをぬつて

はかりに候

宝曆七年八月八日

廣通也

龍の井此記

むつ〜大伴のこむき此大納言と云き人たうよ作のわくや姫

たぬ小ま川のくひの玉とんと海小たすひゆり古今悉くニキ

ぬゑの道がまゝひゆりあつはわい事のため小つるな

かの作取お海もえんち〜の物小とつす源海小た

川ありれり乃のなりと書たり又源氏の物語にも源テノ巻ニアリ

龍玉のい〜物めききりひ〜もは色い〜のいつと

つかすまむ物と〜やゆんはふむ〜の千種の常陸中に

ま〜あるものた〜記身依叢信安仁詩 麻ノ中ノ蓬ト云 世俗麻布ト云村小むり

雲と〜雨ハ山小か〜う〜雲につ〜き〜いと〜さ〜雨也

不小出の〜のり〜あ〜た小井をる事ら〜土あ〜水遠

考〜い〜る〜に〜つち〜ふ〜と〜り〜出〜後〜海土具の〜か〜と

る〜出〜ゆ〜い〜か〜り〜あ〜い〜あ〜あ〜あ〜八雲田抄三十一のち 多林良叙 三余院讚岐参り

おけかめななきのねのぬめしに初きり小登きこせぬり申にも
公事根源録主水同ノ後スレ所ノ井ノ主水ト云ヨル
むきぬ花の雲水ハ井の氷をそくこもしめり系又早苗と云ふ

成し祿より河の水田向ハ氷おかしそ早苗をむりよと民の力成た

そ今ハ水あり井おちりても水の流をさし田によりそも氷の流成

りおふいあしつこふまほひの家お向いフルキト云枕詞そのこみおをを尋ひ

目云枕詞湯濱乃故置故知新入毎湯盤ノ銘ノ心行取
おちゆさす日よふつこいささをこりつをぬる民をさふん

源をいハ井におくあつこなるきり成尾をゆる就神の感意まそふ

疑ふ登りすおちやせり流ハ田を是おちや者の田なり民ハ是

おちやせの民あり橋の戸は流るきも其民をさふハ天の力神め

くまをさしそよつて流るなふしとおひかりおちたつのはい

かを句のわしに通つていあきまの葉成かいつきゆるりそふ

廣通

民の戸は流のめらまの乃とを美をつたふ家小田の軒の玉風

頻

おそ力夏西殿ふしつをせおち登き神はしゆし二のま流りの

年月つしそくちかりの流つををゆためくほせゆあるやう小

おちしゆした系おち殺ハかいと文選七余同トおちありまきく産のあし

つとあり錯おちま瑤おちま英あさゆりちり鏤におち金花はる朝

日の中おちやまきくそくそふのいしををうせし流るのよまいをさ

おちしゆの年月代のおきりゆしハあひひさえす踏なかり天下

きしんせふのめてたを成のちうしひねも〜と海あひるこり
長く家ありしおおくのたまし神在のちしあや〜しあぶあはなせう凡
事せとさひゆるらりふおまにふのうつきかへ探たるやに殿の
内ありとよめさ〜く〜おあそい〜しあぶあはなせう凡
の事いおあたるせあひねたれはよも其神事い〜し〜し〜し〜し
此い〜あぶあはなせうと〜しひねまきに神醫〜し〜し〜し〜し
飛たきと料里に飛るもよひふやれと〜し〜し〜し〜し神事いあ
きん〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し
あぶあはなせうおあはなせうあはなせうあはなせうあはなせう
見あつせ〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し

ひ〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し
お〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し
い〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し
〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し
昔あはなせうあはなせうあはなせうあはなせうあはなせうあはなせう
なりあはなせうあはなせうあはなせうあはなせうあはなせうあはなせう
神いあはなせうあはなせうあはなせうあはなせうあはなせうあはなせう
け神の神あはなせうあはなせうあはなせうあはなせうあはなせうあはなせう
るあはなせうあはなせうあはなせうあはなせうあはなせうあはなせう
〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し

枇杷行司 白文文集

伊勢物語の河百十六段

